

一般演題 H 消化器(肝・胆道)

46. 肝癌における ^{67}Ga -citrate シンチグラムと α -Fetoprotein

京都大学 放射線科

坂本 力 高橋 正治 阿部 光幸
小野山靖人 鳥塚 莞爾

放射線部

浜本 研 森 徹 高坂 唯子
第一外科

鈴木 敬 松本 由朗 本庄 一夫

各種肝腫瘍患者で ^{67}Ga -citrate シンチグフィーを行ない、さらに α -Fetoprotein (α -フェト) を測定して両者の関係を検討して、その肝癌診断における有用性を検討した成績を報告する。

ヘパトーマ25例、コランデオーマ5例、転移性肝癌39例を対象として ^{67}Ga -citrate 1~2 mCi 静注投与72時間後に $\text{pho}/\text{Gamma III}$ シンチカメラを用いてシンチグラムを作成し、その後 ^{198}Au -コロイドによるシンチグラフィを行なって両者を比較し、 ^{67}Ga -citrate の病巣集積程度と組織型および血管写の成績を比較した。また Mancini の single radial immunodiffusion 法により血中 α -フェト量を測定して、 ^{67}Ga 集積度との関係を検討した。

〔結果〕① 各種肝癌の ^{67}Ga -citrate シンチグラム。ヘパトーマでは正常肝部に比して高度摂取7例、中等度3例、軽度7例、同程度7例、摂取低下1例で、組織型では分化型のものが高摂取例が多く、未分化、低分化型では摂取が減少するものが多かった。コランデオーマ、転移性肝癌では低摂取例が殆んどであった。

② ヘパトーマの ^{67}Ga -citrate 摂取と α -フェト値。 ^{67}Ga -citrate 摂取と α -フェトの陽性あるいは陰性と明白に関係する所見はなかったが、全身的には ^{67}Ga 高度摂取例では α -フェト陰性例が多く、軽度摂取例では陽性例が多く認められた。血管写および組織型との関連についても検討を加えた。

③ α -フェト陰性56例のうち ^{67}Ga の高度、中等度摂取例は全例(6例)ヘパトーマであり、 α -フェト陰性の ^{67}Ga 高度集積例はヘパトーマで診断し得るとの成績を得た。

④ ヘパトーマにおける肝硬変の有無と ^{67}Ga 摂取程度との間には特に関連は認められなかった。

〔結論〕 ^{67}Ga -citrate シンチグラムにおける ^{67}Ga の病巣取り込みの程度と α -フェト値の間に一定の傾向が認められ、両者の検索により肝癌診断率が向上すると考えられた。

47. 肝癌患者の血清 α -Fetoprotein と肝シンチグラム

大阪赤十字病院 内科

但馬 浩 大西 三朗 笠原 明
中嶋 健一 清水 達夫 池原 幸彦
二本杉 俊 浦部 愛子 長谷川啓子

我々は現在迄に RI 法により、370例について α -Fetoprotein (AFP) を測定した。20 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 以上を陽性とする、組織学的に明らかな肝癌の陽性率は、20例中15例、即ち80%であった。その他の癌、或いはその他の肝疾患に於ても陽性例を認めたが、320 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 以上を示すものは稀であった。

AFP 測定を経時的に行うと、原発性肝癌に於ては、その値が漸次高値を呈する。即ち経過を観察し得た10例に於て、8例の陽性例はいづれもその値が経過と共に増加した。残りの2例は終始陰性であった。(この中の1例は肝シンチでも Space occupying lesion を認めず、剖検により肝癌と診断されたものである。尚この癌は直径1 cm のものであった。)

これに反し、他臓器の癌に於ては、AFP 値は漸減する傾向を示す。即ち経過を観察し得た11例中4例は AFP 値の漸増を示したが、大多数の6例は陰性化し、又は低値のままに経過した。残りの1例、66才男子の胃癌例(肝転移を伴ったと思われる)は、入院時、肝腫、血性腹水があり AFP 陽性であった。5Fu にて加療する事により、腹水、肝腫も消失するに従って、AFP も陰性となった。数ヶ月後に再び肝腫大を来し AFP も再び陽性を示した興味ある症例である。

最後に例外的な1例について述べる。患者は71才の男子。入院当初 AFP 陽性であり、肝シンチにても、space occupying lesion らしきものを認めた。その肝シンチの像は余り変らないままに一時 AFP は陰性となり、その後再び陽性になった。血管撮影により、肝癌と診断された。